

「主の前で誠実であれ」

ヨシュア24：14～18

今、あなたがたは主を恐れ、誠実と真実をもって主に仕え、あなたがたの先祖たちが、あの大河の向こうやエジプトで仕えた神々を除き、主に仕えなさい。主に仕えることが不満なら、あの大河向こうにいた、あなたがたの先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。私と私の家とは、主に仕える。」

民は答えた。「私たちが主を捨てて、ほかの神々に仕えるなど、絶対にあり得ないことです。

私たちの神、主は、私たちと私たちの先祖たちをエジプトの地、奴隷の家から導き上られた方、そして、私たちの目の前であの数々の大きなしるしを行ない、私たちが進んだすべての道で、また私たちが通ったあらゆる民の中で、私たちを守ってくださった方だからです。

主はあらゆる民を、この地に住んでいたアモリ人を私たちの前から追い払われました。私たちもまた、主に仕えます。この方が私たちの神だからです。」

私と私の家とは、主に仕える。

ヨシュアは、モーセの後継者としてイスラエルの民をカナンの地に導き入れ、占領地をそれぞれの部族に分割しました。彼が年を重ねて老人になったとき、民の長老・指導者たちを集めて(23～24章)、語りかけます。これまで、神がイスラエルの民になさった導きと守りを語り聞かせます。

「見よ。今日、私は地のすべての人が行く道を行こうとしている。あなたがたは心を尽くし、いのちを尽くして、知りなさい。あなたがたの神、主があなたがたについて約束すべての良いことは、一つもたがわなかったことを。それらはみな、あなたがたのために実現し、ひとつもたがわなかった。」(23章14節) 「だからあなたがたは自分自身に十分に気をつけてあなたがたの神、主を愛しなさい。」(23章11節)と勧めます。

その上で、ヨシュアは「今日選ぶがよい。」(24章15節)と民に迫ります。「主に仕えること

が不満なら、あの大河向こうにいた、あなたがたの先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい」と。同時にヨシュアは、「私と私の家とは、主に仕える。」(と宣言します。それは、神の導きと御業を目撃し体験した者としての宣言でした。

私たちもまた、主に仕えます。

このヨシュアの宣言を聞いた民も、「私たちもまた、主に仕えます。このお方が私たちの神だからです。」(24章18節)と答えます。強いられてではなく、自らの決断として告白に対してヨシュアは、「主を選んで主に仕えることの証人はあなたがた自身です。」(22節)と念押しします。民は、あらためて「私たちの神、主に仕え、主の御声に聞き従います。」(24節)と告白します。

主イエスにスカルノ井戸の傍らで出会った女性が、町の人々に証言したとき多くのサマリヤ人がイエスを信じました。(ヨハネ4章39節) イエスが数日滞在された後、人々は「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主だと分かったのです。」(42節)と語りかけています。

自分の目を見て、自分の耳で聞いて「この方が本当に世の救い主だと分かったのです。」と告白しているのです。イスラエルの民もカナンので、神の御業を自分の目を見て、「主を選んで主に仕えること」(ヨシュア24章22節)にしたのです。

私たちもまた、同様に自分の目を見て、自分の耳で聞いて、みことばの確かさを体験して「この方が本当に世の救い主だと分かったのです。」と告白し、「私たちの神、主に仕え、主の御声に聞き従います。」(ヨシュア24章24節)と告白しつつ歩みましょう。

「主のおしえを喜びとし、昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。その人は 流れのほとりに植えられた木。 時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。」  
(詩篇 1 編 2～3 節)